



# CFNJ アウトリーチレポート!

## アジア各地で働かれている御霊の働きを見る!

- 期 間 / 2009年12月8日(火)～17日(木)
- 目的地 / ①ミャンマー ②フィリピン ③タイ・カンボジア
- 参加者 / 学生・卒業生・スタッフ



## Myanmar ミャンマー

### 「日本とミャンマーの架け橋として」

「アウトリーチはミャンマーへ」と示されてから早4年、ついに扉が開かれて行ってきました!この度は、アジア各地で宣教されているダニエル・マカーティ師がコーディネーターとなってくださいました。ダニエル師が私たちを招かれた大きな目的の一つは、日本とミャンマーがつながるためでした。

また、伊藤仁宣教師が全面的に通訳奉仕をしてくださったことは主のすばらしい備えでした。日本語→英語→ミャンマー語でもできなくはないですが、間が開きすぎたり、御霊の流れが途切れたりしかねません。おかげでチーム全員が日本語で証しやメッセージ、祈りやミニストリーを自由にすることができました。ミニストリーの通訳のみならず、移動手段の手配や私たちに合いそうな食事を注文して下さったり、ちょっとした文化・習慣の違いを教えてくださいいただいたりと、何から何までお世話になりました。ソジョン夫人とかわいい三人のお子さん達にもあらゆる面で助けられました。

さて、私たちはまず、ダニエル師が設立されたハッピーファミリー聖書学院を訪問しました。その名にふさわしく、学院長の家族が中心になって運営がなされていました。仏教国のミャンマーではクリスチャンは二級市民扱いをされます。クリスチャンでいること自体がチャレンジであり、また証しなのです。ところで、ミャンマーのクリスチャンは熱いと噂には聞いていました。普段は控えめで穏やかな物腰ですが、礼拝になると、噂通り、みんな賛美大好き・踊り大好きなハッピークリスチャンで、チーム一同圧倒されそうになりつつも、すぐに心一つになって共に主を賛美しました!そして彼らは本当によく仕えてもてなす、愛と情熱に満ちた人々でした。

最初の2日間は聖書学校で鍛冶川師の教えや学生の証し、ダンス指導、保育所で児童伝道などをしました。彼らは日本のようにあらゆる教えが入ってくる環境にはないので、外部から宣教チームが来たりすると、この時とばかりに習得しようと、熱心に教えに耳を傾けていました。日曜日の礼拝後は、伊藤先生の日本語教室で奉仕をしました。そこには未信者の子ども達やお坊さんも来ていました。子ども達はきちんとしつけられており、教会内で弟子訓練がなされている様子が伺えました。また、二ヶ所の孤児院を訪問しました。一つは約130名の孤児を受け入れ、もう一つは教会と併設されたところで十数名の子ども達が歌と踊りを持って歓迎してくれました。どちらも経済的に厳しいにもかかわらず、子ども達を引き取り、来た当時はしつけがなかった子たちをきちんとしつけて教育し、信仰者へと育てていました。

今回は未信者への伝道チャンスは多くありませんでしたが、貧しさの中で懸命に生きる人々の姿にも触れ、日本とミャンマーをつなぐ大きな役割が果たせました。その実が今後さらに豊かに実ることを期待しつつ、主に感謝と賛美をささげます。現地で私たちを受け入れてくださった方々、そして、お祈りやささげ物をもってご支援くださった皆様に心より感謝申し上げます。

稲本妃美子記



賛美するハッピーファミリー聖書学院の学生達



伊藤宣教師ご家族との楽しいお交わり



ミャンマーの姉妹達と共にゴスペルフラを踊る



ハイホーの孤児院 ピンクの服の婦人がこの責任者



水上生活する親子

昨年(09年)12月8日から17日までの10日間、学生、スタッフ併せて27名が3つのチームに分かれ4カ国、ミャンマー・フィリピン・タイ・カンボジアにアウトリーチに出発し、皆様のお祈りと尊い献げ物、そして、様々な支えによって無事、喜びと感謝に溢れ帰国しました。心より感謝いたします。以下はそれぞれのアウトリーチレポートです。全ての栄光を主に御捧げいたします。



## Philippines フィリピン

### キーワードは「関係」

今回の旅を通して私たちはフィリピンに注がれる神様の恵みを見、また私たち自身が多くの神様の恵みを頂きました。まさに今回のチームのテーマとして掲げた御言葉の通りでした。

●テーマ御言葉 / 「**多くの人に食べるパンを備えてくださる方は、あなたがたにも多く種を備え、それを増やし、あなたがたの義の実を増し加えてくださいませ。(IIコリント 9:10)**」多くの方々の尊いご支援とお祈りによって支えられた旅であったことを覚え、はじめに心より感謝申し上げます。今回の旅のキーワードは「関係」でした。

### 人と人との関係

今回数多くの奉仕や交わりの機会を頂きましたが、その一つ一つで私たちは心からフィリピンの人たちとの交わりを楽しむことができました。フィリピンの人たちはいつでもどこでも楽しめます。礼拝とパーティーの境目が良く分かりません(笑)。私たちが一緒になって大盛り上がりで笑って、賛美して、食べて、楽しむことができました。1週間分の笑いを1日で使い果たす生活を1週間連続して続けた印象です。

### 日本とフィリピンとの関係

今回私たちを受け入れて下さった菅原宣教師の牧する「フィリピン日本人教会」では、日本人は勿論、日本人のご主人をもつフィリピン女性の方や、日本に重荷のあるフィリピン人の方々が集っています。その方々の日本に対する愛と祈りに感動を覚えました。私たちがフィリピンに行って祈っていただいたこと数知れず。また戦争時代の苦い歴史にも関わらず、私たちが心から歓迎して温かく迎えて下さいました。私たちは皆、フィリピンという国を大好きになりました。今後もフィリピンのために祈り続けます。

### 神と人との関係

今回の旅で最も印象的だったのは貧しい地区でのミニストリーです。フィディングミニストリーで出会った子供たちの笑顔は忘れられませんし、そのような貧しい地区でスモールグループが増え広がる事実を知って、「貧しいものは幸いです。神の国はあなたがたのものだから。」<ルカ 6:20>の御言葉のこの地上での体現を見ました。CCTというクリスチャン企業がそれらの働きを担っており、「魚を与えるだけでなく、魚の取り方を教える」として、貧しい地区に住む人たちに聖書を教え、また自立支援をしています。その素晴らしい活動の数々を見て、私はフィリピンの貧しい人々に届く神様の愛の手を見た気がしました。

●テーマ御言葉には続きがあります。

「**あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、惜しみなく与えるようになり、それが私たちを通して、神への感謝を生み出すのです。(IIコリント 9:11)**」

私たちは各々、この旅で様々なことを感じ、経験し、学びました。この旅の期間中に私たちが行ったことは小さなことかもしれませんが、今回の経験を生かして益々人に良いものを流す器へと成長し、私たちを通して人々が神様に感謝をささげるようになるその事実を知って、神様に感謝をささげます。

滝沢真一記



日本からの学用品を配布する学生達



1000人規模のクリスマス特別礼拝で奉仕する学生達



フィリピン日本人教会のクリスマスパーティの様子



CCTの自立支援活動の様子

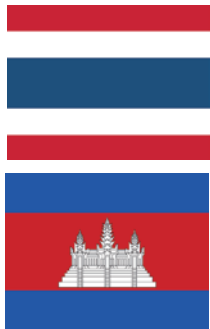


現地の子供達との交わりの様子



# CFNJ アウトリーチレポート!

## アジア各地で働かれている御霊の動きを見る



## Thailand & Cambodia タイ & カンボジア

### 「子供たちを私のところに 来させなさい!」

タイ & カンボジアは、1999年に14期生と15期生からなる35名のアウトリーチチームが派遣されて以来、10年ぶり2度目の訪問となります。今回は、CMPコースの専任講師であるアルマ師とCMPコース学生が中心となり、そこに一般コース学生が加わって結成された11名のチームで、タイ北部・チェンライとカンボジア・ポイペットにある、MERCY MINISTRIES FOUNDATION (以下MMF) が運営するクリスチャンハッピーホーム (以下ハッピーホーム) に行きました。

最初の訪問地であるチェンライのハッピーホームでは、そこで生活する60人位の子どもたちと花壇を作ったり、遊んだりして積極的に関係を築くようにしました。「内なる癒し」のミニストリーでは、子どもたちが素直に聖霊様を待ち望み、心を開いて自分を委ねる姿に感動をおぼえました。神様はタイにおける次世代のリーダーたちが立ちあがるため、準備をされています!

次の訪問地であるカンボジア・ポイペットでは5年前から始まったMMFの3つの施設を訪問することができました。

**1つ目は、**30人くらいの子どもたちが生活しているハッピーホームで、現地スタッフの方々と共に、40度近い炎天下で花壇作りや道路の修繕作業のお手伝いをしました。体力的にかなりハードでしたが、現地の方々も喜んでくださり、何よりも子どもたちの笑顔を見ると疲れも吹っ飛びました!

**2つ目に、**HIV/エイズに感染した母子家庭を保護するホープセンターを訪問しました。ここでは、お母さんが社会復帰して自立できるように職業訓練がなされ、子どもたちは無料で学校で学べるように支援しています。最近火災により施設の一部が消失してしまいましたが、チームが焼跡の片づけや柵の補修作業を手伝うことができました。また、何よりも感動したのは、数時間前に洗礼を受けた女性に出会うことができ、彼女の祝福のために祈る機会が与えられたことでした。

**3つ目に、**スラム街の子どもたちの幼稚園に行きました。そこではアルマ師が救いの必要性について教え、多くの子どもたちが罪の自覚と救いについて理解し、応答する時間も与えられました。短い時間でしたが広場で一緒に遊んだあと、教師の方々と共に祈る時間が与えられ、お互い励ましを受けるときとなりました。

カンボジアで最後のチームデボーションをしているとき、聖霊様が強く臨まれ、一人一人の溢れるような祈りから、国の癒しと霊的回復がなされる神様の約束が与えられました。神様は確かにカンボジアを愛しておられことを示してくださいました!

私たちチームのために祈り励まし、支えてくださった皆様に心から感謝します! すべての栄光が主イエス様にありますように!!

藤江勇士記



MMF創設者ローズ先生(後列中央)とチェンライの子どもたち



アルマ師のミニストリー



花壇作り



カンボジア・ポイペットの子どもたち



カンボジア・スラム街幼稚園で真剣に祈る子どもたち